

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	頭蓋形成術前後のリハビリテーション評価と臨床経過に関する研究
研究責任者	聖隷浜松病院 脳神経外科 佐藤 史崇
研究実施体制	単施設後ろ向き観察研究
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2028 年 12 月 31 日
対象者	2010 年 1 月から 2030 年 12 月までの間に聖隷浜松病院脳卒中科・脳神経外科で加療を受けた静脈洞血栓症の患者を対象とする。
研究の意義・目的	脳出血や外傷などにより、脳ヘルニアの進行が予測される患者では、脳ヘルニアを避ける目的で頭蓋骨を外す減圧開頭術を行うことがある。その他にも骨の汚染等の理由でも一時的に頭蓋骨を敢えて外すことがある。 頭蓋骨を外した患者の多くは、後に遊離骨を戻す頭蓋形成術を行うが、日々の臨床では頭蓋形成術後に患者自身の活気がでてくるなど、手術で骨を戻すこと自体が良い影響に繋がっている印象を受けることも多い。 そのため、頭蓋形成術を受けた患者の手術前後のリハビリテーション評価と臨床経過に関する検討を行い、頭蓋形成術の副次的な効果を探ることを目的とする。
研究の方法	2010 年 1 月から 2030 年 12 月までの間に聖隷浜松病院脳卒中科・脳神経外科で頭蓋形成術を受けた内、診療録から手術前後の症状、画像情報、リハビリテーション所見などが確認できた者を解析対象者とする。症状や臨床経過、リハビリ評価項目などを分類分けし、検討する。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 脳神経外科（氏名）佐藤 史崇 TEL: 053-474-2222（代表） 脳神経外科外来 9:00～17:00 平日